

品目:ナス / 下葉～中位葉にかけて葉縁が枯死, 果実にがく割れ



原因は不明

品種:筑陽(台木:トレロ, アカナス, トナシム)

発生時期:2004.12月中旬

葉身中無機成分含有量

農家			P %	K %	Ca %	Mg %	Fe ppm	Mn ppm	Zn ppm
正常	A	トレロ	0.766	6.58	3.70	0.653	104	180	33
障害	A	トレロ	0.871	6.38	3.58	0.668	113	127	24
正常	B	アカナス	0.445	4.35	6.30	1.269	87	43	20
障害	B	アカナス	0.409	4.03	7.26	2.242	101	104	20
障害	C	トナシム	0.333	5.37	4.95	1.101	106	47	13
正常	未発生圃	アカナス?	0.562	6.66	4.32	0.375	143	61	17

※未発生圃場のサンプルは、こちらで保存していた現地のサンプルを供試

土壌の化学性

		pH	EC mS/cm
正常	A	6.1	0.11
障害	A	6.3	0.09
正常	B	6.1	0.16
障害	B	6.2	0.14
障害	C	6.4	0.28
障害	C 稗田サイド西	6.4	0.22

品目:トマト / 下位葉から黄化



品種:穂木;カゴメラウンド 台木;Bバリア

発生時期:2005.10.下

その他:前作は水田

原因:土壌中の有効態リン酸欠乏によるMg欠?

対応策:①液肥によるリン酸と苦土の施用。

②リン酸, 苦土の葉面散布。

(葉面散布の場合は, 数株試しに散布し障害が認められなかったことを確認後, 圃場全体に散布する。)

補足:

① K欠も類似の症状を示すため, 作物体分析後, 対策をたてる。

(KとMgは拮抗作用があるため, 対策を間違った場合には, かえって悪化する)

② PとMgは「相助効果」があり, 互いの吸収を助け合う。

③ 液肥のPとMgは水溶性(=即効性)であるため, 速やかに植物体に吸収される。

④ 土壌消毒後に土壌微生物(硝酸化成菌)が不在となり, 土壌中に多量(10mg/100g以上)のアンモニア態窒素が存在することにより, 同様のMg欠症状を示すことがある。

(NH4+とMg2+の拮抗作用)

表 作物体内の無機成分量

農家	P	K	Ca	Mg	
					(%)
正常	A	0.30	3.58	5.94	0.74
〃	B	0.24	2.95	7.18	0.86
やや悪	C	0.24	2.36	4.59	0.59
甚悪	D	0.27	2.85	5.78	0.54

(小葉のみを分析)

表 障害発生圃場Dの土壌化学性

pH	5.8
EC	mS/cm 0.63
有効態リン酸	mg/100g 22.5
交換性石灰	mg/100g 289
交換性苦土	mg/100g 34
交換性加里	mg/100g 37
硝酸態窒素	mg/100g 14.4

(土壌分析はJAによる)